

西高の思い出

安田 賢司

「起立。」「おや?」「先生、一年は三階だよ。」と言う声で我にかえった。こんな失敗が私の西高での始まりでした。以来15年と7ヶ月。月日が経つのは早いものです。まず思い出されるのは野球部の監督をまかされたことです。野球に関して素人同然であった私が監督、部長と務められたのは、部員、OB、その他大勢の人達に恵まれたからだと思っています。平日だというのに、夏の大会だけは、遠くだろうが近くだろうが必ず見に来ては声を張り上げ応援してくれるそんな人達に西高の野球部は支えられてきたのだと思っています。今年の夏もぜひ頑張ってほしいと思っています。

また西高は一宮高校と学校群を組んでいて常に両校は比較されてきました。私が西高に赴任したときは群の一回生が卒業したあとで、一宮高校以上の進学実績を挙げたときでした。その後二、三年は一宮高に匹敵する成績を残したものの、その後飛躍的に一宮高が伸び、我が西高はおいてきばりをくうはめになったのです。いわゆる西高のつらい時代でした。西高の職員として私たちは、生徒自身が卒業したとき、西高で良かったと思える学校づくりを目指してきたつもりです。そして進学成績を良くするためにはどうしたらよいかと模索し始めたのもこの頃だったと思います。今思えば、ずいぶんと無茶な事や、後先考えない事をやってきたなあと、思っています。

土曜日の午後や休日だろうと時間さえ

あれば補習をやったのも覚えていきます。そこまでやらなければならなかった西高だったと私は思っています。幸いにもその後の西高の実績は過去の歴史を幾度となく塗りかえてきました。ひとつの目標にむかい、多くの先生が結束した結果だと思っています。複合選抜という新しい入試制度のもとで今、改めて新しい西高が要求されています。地域のそして生徒の期待にこたえる西高であってほしいと切に願っています。

在任中豊富な経験、力量をもつ諸先生方のご指導を受け、また各地で活躍されているOBの方々の励ましを受け、何とか無事つとめてこれました。西高で出会った人々は、生涯私の恩師であり、親友であり、良き後輩だと信じています。西高同窓会の益々の発展を願っています。

ラグビー部と共に九年間

笹原 和伸

西高九年間で、一番印象に残っているのは、前任校から転動してきてすぐに担任をした一年八組と、その学年のラグビー部の生徒達です。さて、昭和五十八年四月に入学したラグビー部の生徒達と共に彼らの三年間を振り返ってみたいと思います。

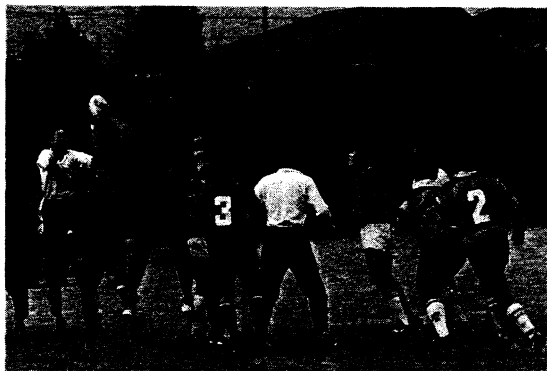
まず、彼らは二年生の時の夏合宿を、岐阜県の数高高原で、四泊五日の日程で行ないましたが、幸運にも、全国大会出場経験を持つ報徳学園や、スクールウォーズで有名になった伏見工業とゲームができました。しかし、その力の差には、大変驚かされました。

その後の練習の成果があったのか、新

人大会の尾張大会で優勝、県大会準決勝では名古屋工業に勝って決勝に進出し、結果は負けて第二位でしたが、練習時間の少ないなかで勝利をつかんだ大会でした。

彼らの最後の大会である総体尾張大会で優勝し、県大会準決勝で西陵商業と対戦することになりました。前半18対9とリードし、東海大会に出場できると思っただのもつかの間の夢、スクラムトライを次々と取られ、24対18で負けてしまいました。試合後、西校FWの疲れ果てた姿を見た時、彼らも充分に力を出して戦ったのだなあと思いました。

彼らが、ラグビーだけでなく、部活動で得た何事にも全力でぶつかる気力をいとし、進学の面でも素晴らしい実績を示した学年だけに、私自身教員生活十九年間に於いて、特に印象深い学年として心に残っています。彼らが、その後、どのような人生を送っているか、再会を楽しみにしています。



始まったばかりの

大学生活

兼松 香織



大学生活が始まって、そろそろ一ヶ月になります。

ど、大学生になった、という実感がまるでありません。だからこの原稿に何を書こうか悩んでいます。しかし、悩んでいるだけでは、原稿はうまってくれません。というわけで、ここ一ヶ月間の大学生活で感じたことなど、少し書いてみたいと思います。

大学の第一印象は、はっきり言って、不親切の一言でした。慣れば、なんてことはないのですが。高校までは、椅子に座ってても情報とかは耳に入ってきました。担任の先生方が、いろいろ教えてくれたりしたわけで、情報に対してけっこう受動的な姿勢でした。自分から動かなくても、なんとかなるんだろう、という感じだったもので。ところが、大学では、自分から動かなければ、全く情報が入って来ない。最初の頃は、掲示板を探して走り回ってばかりでした。友人と、不親切だ不親切だ、と文句ばかり言っていたような気がします。でも、不親切じゃないんですよね、本当は。不親切どころか、当然のことなんです。自分から動けば、それなりに得るものがあるわけですから。もっと積極的に動かねばと思っている、このごろです。

さて、大学というのは、けっこう各

地から人がやってくるんです。おかげで、友人は地方色豊かな子がたくさんいます。沖縄とか島根とか山形とか。最初は、出身地を聞くたび驚いたりしてました。そのたび、ああ田舎者だな私ってなどと思っていたんですが。しかし、出身地によって、ものとのらえ方や、考え方が全然違うんですね。そりゃ、個人的な性格とかもあるんだろうけど、やっぱり、「お国がら」というのが出てくるみたいです。話とか聞いていると飽きない。自分と違う意見や考えを聞くと、自分の考え方も幅を広げられるんじゃないかと思う。それでもって、視野も少しずついいから広げていけたらもったいと思ひ、せつせと友人を作っています。とにかくやれる時に、やれることはやっています。

